

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	ほわわ台東		公表日		年 月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2	マンツーマン支援ができるよう調整している 基準の人員は常に配置しており、利用者さんに合わせて職員を追加している。 介護職も看護師の指導の下、吸引や注入を	職員配置について職員に説明し、安全な環境づくりをしていく必要がある。 介護職の吸引や注入指導を進められていない人がいるため、進めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	12			利用者さん一人ひとりにわかりやすい環境を提供することはまだまだ課題である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	12		毎日の掃除と定期的な掃除を行なっている。	細かい箇所などまだ足りない箇所があるため、役割分担して定期的に掃除していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められているか。	11	1	お昼寝や食事の場所など、利用者さんに合わせた場所で行なっている。	個別の部屋に限られるため、部屋を区切るなど活動に合わせて環境を作っていきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)が実施されているか。	11	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けているか。	11	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に活かしているか。	12			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	1	法人の監事（外部）による評価を受けており、評価結果をもとに業務改善に繋げている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内研修を実施しているか。	12			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12			インターネット等への公表はこれから行う
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者の関係性を構築しているか。	11	1		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者の承認を得ているか。	11	1		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォローアップを行っているか。	12			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援計画の作成と実施」が反映されているか。	12			

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		季節に合わせたプログラムを作成している。	毎月季節に合わせた活動を計画して実施している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ	11	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支	11	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた	11	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改	12			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必	12			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会	12			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推	12			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間	12			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			台東区の通所連絡会、医療的ケア児連絡会	連絡会の内容や他の事業所との連携していることを職員が分かりやすいよう情報提供していきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてス	3	1	に参加し、事業所間やセンターと連携している。	
32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の	12		近所の認定子ども園の園庭開放を利用し交流している。		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状	12				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援ブ	11		就学前の保護者に対して、就学した保護者から説明会を開催した。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明	12				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の	12			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保	12			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に	12			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等に	11	1		ご家族が参加できるイベントなどをもっと企画していき、保護者やきょうだい同士で交流することで出てくる課題を職員間で共有し、解決していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整	12			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用すること	11	1	活動通信「ぼわぼわ」を毎月発行して、活動内容の報告やお知らせなどを行なっている。	SNSはまだ定期的な投稿になっていない。運用方法を決めて定期的に更新したい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための	12			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運	8	4		地域の人が時々いらっしゃるが、広く開かれた場所となっていないため、地域のイベントなどに参加していく予定である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル	12		シミュレーション、ミーティングなどを通してマニュアルの内容を職員に周知しています。	防犯マニュアルが不十分のため、しっかり作成して実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に	12		毎月シミュレーションを行っている。利用者さんには3日分の食事や薬を準備してもらっている。食事はほわわで保管して	帰宅困難になる場合を想定した準備がまだ不十分である。事業所で泊まることを想定した訓練も実施していきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確	12		ご家族と定期的に面談等を行い、内服や予防接種、状態悪化時の対応について確認し、一人ひとりマニュアルにしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく	12		ご家族と定期的に面談してアレルギーについて確認し、職員間で周知できるよう記録に残している。現在、エピペンを使用する利用者さんがいないが、医師の指示書をもとに対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要	12			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、	11			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策につ	11			ヒヤリハット事例がもっと報告され、職員の安全に対する意識を高められるようにしていきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対	11			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織	10			身体拘束に当たる事例などを職員で確認し合い、支援の質を高めていきたい。